

胸部・循環研究奨励賞 (砂田賞)



高谷 陽一

略 歴

平成16年3月 岡山大学医学部医学科 卒業
平成16年4月 姫路赤十字病院 初期臨床研修医
平成18年4月 三豊総合病院 内科
平成20年4月 岡山大学病院 循環器内科
平成21年4月 国立循環器病研究センター 心臓血管内科
平成24年4月 岡山大学病院 循環器内科
平成28年10月 岡山大学病院 超音波診断センター 助教
現在に至る

研究論文内容要旨

心房中隔欠損症 (Atrial Septal Defect: ASD) は成人期に最も多い先天性心疾患であり、近年、カテーテル治療は低侵襲で安全に行うことができ第一選択となってきた。ASDはたびたび右室拡大に伴い三尖弁閉鎖不全 (Tricuspid Regurgitation: TR) を併発するが、ASD閉鎖術後のTRの長期経過は検討されておらず、高度TRを併発したASDに対する治療戦略として、カテーテル治療だけで良いか、三尖弁形成を含めた外科的手術が必要かは、明らかでない。そこで、我々は、ASDカテーテル治療を施行した419例において、心エコー図検査で測定したTRの治療後の変化を、心イベントとの関連性も含めて、検討した。

ASDカテーテル治療前、113例で高度～中等度のTR、306例で軽度のTRを併発していた。高度～中等度のTR併発例において、カテーテル治療30ヵ月後、容量負荷の改善により右室形態は縮小し、TRは有意に減少を認め、113例中79例 (70%) でTRは軽度にまで改善した。治療後も高度～中等度のTRが残存する症例は、慢性心房細動に伴う心房拡大が関連していた。心イベントに関して、高度～中等度のTR併発例は7例で心不全による入院加療を要したが、90%以上の症例では心イベントを合併することなく経過でき、心不全症状は有意に改善を認めた。

本研究では、ASDカテーテル治療後、高度～中等度のTRは有意に減少し、心不全症状も改善を認めたことから、高度TRを併発するASDに対する治療戦略として、カテーテル治療のみで十分に有効であることが示唆された。